

11 うらない仏

伝承地：石那田町（日光街道縁辺西側）



(うらない仏)

国道119号線（日光街道）が通過する石那田町の道路沿いに「うらない仏」と呼ばれている石仏がある。

この石仏は、大谷石を素材としているため仏像名がわからないほど風化しているが、おそらく地蔵菩薩であると思われる。

坐像であるこの石仏の台座には、いつの頃からか2・3個のまんじゅう形の石が置かれるようになった。

人々がこの石仏にぬかずいて何事が願いをかけた後、いずれかの石を手にして軽く感じれば願いがかなえられるあかしであるといわれている。

このようないわれがあることから、近郷近在では古くから石仏を「うらない仏」と玉石を「うらない石」と呼んで大切にしてきた。



12 大網のいわれ

伝承地：大網町

参考書籍：33



(大網町)

大網町のいわれは、倭名類聚鈔に記されている河内郡10郷名のうちの大績（おおみ）が転じて大網になったとされている。しかし、このほかに、次のような言い伝えがある。

高座山の藏宗、藏安のひきいる賊を藤原利仁が平定したときのことです。その日は大雪で高座山に登ろうとしても、すべってしまってなかなかあがれませんでした。そこで、利仁軍は、

ふじでもっごを作り、これを犬に引かせて山に登ろうと考えました。大網一带には、もっごが何千、何百と並べられたので、山の上の賊たちは、網で魚をとるときのように自分たちをつかまえるものと思い込み、その動揺は大変なものでした。そして、とうとうこのもっごによる登山は成功し、山の上の賊をつかまえることができました。この後、いつのまにか、人々の間では、もっごが並べられたところを大網と呼ぶようになりました。

